

令和6年度小平市立小平第三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

- ・書くこと、読むことの正答率が全国、東京都の平均に比べ10ポイント以上高くなっている。児童の書く力、読む力が伸びていることが示唆される。
- ・全国で無回答率が高い問題も、本校児童は無回答率が非常に低く、児童が粘り強く考えたことが分かる。

課題

- ・書くこと、読むことの正答率は全国、東京都の平均に比べ非常に高い。記述式に比べ、選択問題の正答率が低い。問題作成者の意図を正確に読み取る学習が必要である。
- ・漢字の正答率は全国平均より高い。児童によって正答率の差が大きいため、個別最適な漢字学習の在り方を提案する。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・都道府県別平均で一位は秋田県の72.9ポイントであり、本校は74ポイントであった。
- ・デジタルの活用により、書くこと、読むこと的能力低下が懸念されたが、全国平均と比べて10ポイント以上高かった。漢字も、全国平均よりも高い結果が出ている。更なる学力向上に向けて、個別最適な指導法を確立していく。

【算数】

状況の分析

- ・全国、東京都の平均と比べて平均的な正答率である。
- ・数と計算の正答率は比較的高い。基礎的な計算はできている児童が多い。
- ・短答式に比べ、記述式の方が無回答率が低い。

課題

- ・正答率が低い問題は無回答率が高い。分からないまま、答えられず諦めてしまった児童がいることが考えられる。
- ・速さとデータの活用の正答率が低いことから、児童の苦手意識があることが分かる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・記述式や短答式の問題を解く機会を増やす。解いたことのある問題を増やすことで、児童の苦手意識を軽減していく。さらに、デジタルドリルなどを活用し、正答率の低い単元を復習する。
- ・デジタルドリルに積極的に取り組むことと学力に相関があることが明らかになった。知識・技能の定着のため、積極的に活用していく。

【質問紙】

状況の分析

課題

- ・自己有用感に関わる質問への回答が全国、東京平均よりも高い。児童の自己有用感が高いことがわかる。
- ・全国、東京平均と比べて、学校に行くのが楽しいと感じている児童が多い。
- ・教師がよいところを認めてくれるかという質問に対して「そう思わない」と回答した児童がいなかった。

- ・学校が楽しい、教師が認めてくれていると感じている児童が多い反面、困りごとや不安を、教師や学校にいる大人に相談できないと感じている児童が多い。
- ・年々、テレビゲームの時間が伸びていることが分かる。家庭と連携し、生活習慣への配慮も必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・生活習慣について、家庭にも呼び掛けることで改善を目指していく。
- ・東京都では、様々な困難やストレスに対処するための教育として「SOS の出し方に関する教育」を推進している。自己有用感が高い児童がであるからこそ、頑張りすぎて、心が折れてしまう児童も多いといわれている。ふれあい月間なども活用し、相談しやすい環境をつくっていく。